

2024年度リニモ沿線地域づくり会議 概要

1 開催日時等

日 時：2025年2月14日（金） 午前10時～正午

場 所：地球市民交流センター 体験学習室1・2・3

出席者：委員6名、オブザーバー3名、事務局13名、まちづくりセミナー等参加者9名

2 会議の概要

開 会

（1）あいさつ

（2）議事

議題1 リニモの利用者数について

議題2 リニモ沿線の地域づくりに向けた最近の取組状況について（県・市）

議題3 主要施策の進捗状況

（3）まちづくりセミナー

（テーマ：公共交通と連携したまちづくり施策の推進について 講師：後藤 直紀 氏）

資料1～2について、愛知高速交通株式会社及び事務局（愛知県）から説明した。

【議題1及び議題2（県）についての委員・事務局等発言要旨】

○清水委員

以前リニモとほかの交通機関との連携ということでMa a Sの社会実験をしていたと思うが、その後どのような展開になっているのか。

→愛知県

Ma a Sの取組みについてだが、県では昨年度まで3年間、全国的なmy routeを使って東部丘陵地域を中心に実証実験を行っていた。3年間の取組みということで限定して行ってきたが、様々なデジタルチケットの造成や沿線のPR、Ma a Sをきっかけにシェアサイクルを導入するなど様々な取組を行ってきた。ある程度利用が見込めたので、実証実験自体は終了したが、引き続きデジタルチケットなど民間の事業者に取り組んでいただくことになった。現在は、主に民間事業者主体で展開していただいている。

○梶原委員

ジブリパークチケットを申し込まれた方に旅マエ情報としてメルマガを配信しているとのことだったが、沿線地域の情報など幅広い情報の掲載はできるのか。

→愛知県

メールマガジンの配信については、ローソンチケットを展開するローソンエンタテインメントがされている。料金はかかるが、掲載を依頼することは可能である。

○瀬口委員長

資料1について、年度の比較でジブリパークの休園に伴い、昨年度より減少しているところがあるとのことだが、昨年度より増加しているところはジブリパークの効果によるものなのか。

→矢崎常務取締役

ジブリパークが令和6年3月に全エリアがオープンしたことに伴って増えている。駅の利用状況を見ていてもやはり増えているのは愛・地球博記念公園駅を発着とするお客様であるため、ほぼジブリパークの効果といってもよいと思われる。

→瀬口委員長

そうであるならば、愛・地球博記念公園駅の乗降客数の変化がわかるグラフがあるとさらにインパクトが顕著に見えやすいと思う。

→矢崎常務取締役

駅別の変化を見ていくと愛・地球博記念公園駅だけが大きく変化があるが、もちろん愛・地球博記念公園駅が増えると藤が丘駅と八草駅の乗降客数も増える。見せ方としてはそのようなグラフがあってもよかったと思う。

→瀬口委員長

起終駅の乗降客数の変化はもちろんだが、中間駅の変化も注視する必要がある。中間駅は区画整理や大型施設があるので、そのあたりの変化があるかどうか確認してほしい。当初、IKEAが建設されたときに荷物の配送とセットでリニモを使ってもらうようなことも考えたかどうかという意見もあった。それが今どうなっているのか。他にも交通渋滞も懸念しており、過去の報告だと土日は渋滞しているとのことだったが、今後の動向も注視する必要がある。大型施設の動向は、まちづくりの視点からは非常に関係が深いので注視をしていただければと思う。

○村田委員

非常にたくさんの取組みにより、リニモ自体の乗降客数が増えているとのことだが、おそらくジブリパークが開園してからモリコロパークの来園者数も増えていると思う。実際にジブリパーク、モリコロパークに来園している方のどれくらいがリニモに乗っていてどのような行動をしているのかデータをしっかりとおさえていただき、具体的な政策がどう展開できるのか考えていただきたいが、どのように捉えているか。

→矢崎常務取締役

リニモの分担率でいうと、ジブリパーク開園前では2割程度を予想していたが、実際、開業後の状況をみると4割程度と見込んでいる。予想を超える分担率ではあるが、そのような状況を踏まえてどのような展開をしていくかは検討していく必要があると考えている。

→村田委員

近郊からの方、特に愛知県内の方は車で来園される方が多いと思うが、遠方から来られる方、あるいはインバウンドで来る方は、リニモを利用されることが多いと想定されるのでそのようなことも含めて、どういうところからどういう形のお客さんが来ているのかを分析しながら次のステップに進んでほしい。先ほど旅マエの企画もあったが、それはまさに遠くから来る方にジブリパークだけでなくその周辺も併せて、なんなら一泊してからお帰りいただけるようなモデルコースなど、沿線周遊のアピールが上手くできるような具体的な施策が展開できるように来園される方の分析をさらに進めて

いただきたい。

→矢崎常務取締役

4割というのはジブリパークに来園される方のうちの4割がリニモに乗っているという意味である。

→瀬口委員長

ジブリパークに来ている人が300万人近いので120万人弱がリニモで来ているということである。年間乗降客数の1,000万人のうち120万人がジブリパークへの来園者だと推察できるという認識で間違いないか。

→矢崎常務取締役

ジブリパークの来場者数は一日あたり4,500人から5,000人程度と見込んでおり、間を取って4,750人だとすると4割の1,900人が往復利用すると仮定し、3,800人×営業日の300日で年間114万人だと推測している。

○亀倉委員

リニモでおでかけ&グルメに関していつ何を目的にどのような形で作成したのか。

→愛知県

全体としては、資料にも掲載しているが旅マエの段階で情報提供するということを目的に作成した。ガイドの発行というと紙ベースの話であり、特設サイトといいますとWeb上にサイトを作ってしまう取組になる。ガイドと特設サイトはそれぞれ役割が異なる。実際、旅マエでまだジブリパークに来ていない方に情報を提供しようと考えているので、なかなか紙ベースのガイドをお届けするのは難しい。そのため、遠方の旅マエの方に情報をお届けする役割は特設サイトとしている。そのため、「ジブリパーク」や「長久手」といったワードをいれると検索上位に本サイトがでてくるように現在試行錯誤している。対して、ガイドは手に取りやすい場所に配架することで本地域に来た方をリピーターにつなげるための役割を担っている。

→亀倉委員

ジブリパークに来園後、そのまま帰ってしまい、周遊につながらないことから、旅マエをターゲットに施策を行っていることはとても大事なことだと思う。次にどう考えていくかの一つの視点として、どういう方々にどういう風に訴求したのか今後検証が必要になってくる。当初想定していた方々がリピートしてくれるかが非常に貴重な情報である。ガイドやサイトを作った終了ではなく、次に向かってどう作りこんでいくかが大事である。サイト内の情報を更新するとビューが増えるとのことであるためそういった点も含めて工夫をしてほしい。

資料3～7について事務局（沿線市）、資料8について事務局（愛知県）から説明した。

【議題2（市）・議題3についての委員・事務局等発言要旨】

○瀬口委員長

事業の進捗状況を見ると各ラッピング車両や長久手市のシティドレッシングなど目に見える形での情報発信は進んでいると思われる。また、藤が丘あるいは八草のそれぞれの交通拠点に関する施策もそれぞれの市に頑張ってもらっていると思う。周遊や広域的なネットワークを構築するという視点がかかなりあるのではないかと受け取られる。しかし、先ほどの説明で施策の進捗状況はかなり進ん

でいるが、検討中・計画中の施策では区画整理や市街地整備などハード系のものは地権者の合意が必要等なかなか難しい。ソフト系の県や市の施策は、かなり進んでいる。今後の活動については、もう少しデータを活用し、それぞれの施策のフィードバックをすることや広報については、チラシよりもSNS等で検索する人が増えているので個々のデジタル化の対応、キャッシュレスの導入を着実に進めてほしい。

○愛知県

本日いただいたご意見については、今後のリニモ沿線地域づくりの参考にさせていただく。

【(3) まちづくりセミナー】

公共交通と連携したまちづくり施策の推進をテーマに国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課長後藤直紀氏にご講演いただいた。

以上